

第 92 回岩手医科大学歯学会例会抄録

日時：令和 4 年 2 月 26 日（土）午後 1 時より

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室（C 棟 6 階）

特別講演

口腔インプラントの臨床と研究

Clinical practice and study in relation to dental implant

○鬼原 英道

岩手医科大学歯学部補綴インプラント学
講座補綴インプラント学分野

チタン製デンタルインプラントを使用した咬合再構築治療の臨床応用が開始して半世紀以上の年月が経つ。PubMed による文献検索では、“Dental Implant” の用語にヒットする文献は 2021 年 12 月現在で 5 万 3 千件以上であり、現在のデンタルインプラントの需要を考慮するとその数字は当然と考えられる。それらの報告では、インプラントの予後、骨移植、清掃法、補綴方法、補綴精度、上部構造材料、インプラント周囲炎など、様々なものが存在する。現在口腔インプラント外来では、口腔インプラントを専門とした治療を学術的な背景をベースに行ってきている。その治療内容としては、難易度の高いインプラント治療や、様々なインプラントトラブル症例などを行っている。インプラント埋入直後に暫間補綴装置を装着する即時荷重治療は、インプラント埋入直後に審美的回復が可能となるが、治療自体は熟練度を要するものである。また、前歯部の審美症例では、軟組織の形態や質、硬組織の保存、インプラントの埋入深度、角度、位置など様々な要因が良好に行われなければ審美的な結果は望めない。

またインプラントに関する研究は、インプラントを埋入するための歯槽骨の回復、軟組織の反応および上部構造に関するものを主軸として行ってきている。骨増生の研究では、Tricalcium phosphate や nano-Hydroxyapatite を使用した

研究を一貫して行っており、動物実験では、良好な骨伝導性を確認し、サイナスリフトでの臨床研究も行っている。サイナスリフトに使用した TCP ブロックのその後の予後についても追跡調査を行い、生体内での TCP の変化を観察している。

本公演では、口腔インプラント科の臨床例ならびにデンタルインプラントに関する一部の研究を抜粋し提示する予定である。

一般演題

1. Cadaver Surgical Training (CST) における固定液（Thiel 液）の歯科的検証

Dental verification of the Thiel's fixative in Cadaver Surgical Training

○小田中 朝美, 九鬼 懂子, 小林 真優,
清藤 尚子, 佐々木 信英*, 藤原 尚樹*,
浅野 明子**, 工藤 義之**, 三浦 廣行**,
藤村 朗**

岩手医科大学歯学部 3 年, 岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野*, 岩手医科大学歯学部口腔医学講座歯科医学教育学分野*

目的：わが国の CST では通常ホルマリン固定法は用いず、関節が可動性を維持している Thiel 固定法を用いることが多い。この固定液は上皮が剥離するため、粘膜下層が薄い口腔粘膜の切開や縫合の訓練に支障をきたす。また、顎関節の可動範囲が生体とはかけ離れた動きを示す。これらの問題点をクリアするため、モルホリン (M) とプロピレングリコール (PG) に注目し、その量を減らして原法と比較した。さらに、Saturated Salt Solution (SSS) 法との比較も行った。

材料・方法：2 か月齢雄性マウス 65 匹を使用